

子ども会（学習会）だより

MY SKY No. 24

マイ・スカイ

1997年11月11日火曜日発行(毎週火曜日子まぐれ発行)

発行者

板野中学校

学習会

編集・文責：吉成正士

ちよつと前に、ある同和教育の会に参加していたとき、司会の方がこう言われました。

「今まで『婦人部会』^{ふじんぶかい}」と言っていたのを、

『女性部会』^{じょせいぶかい}にかえようと思うのですが、いかがでしょうか？」

ボーっとしていた私の頭の中には「?????」^{れんぱつ}が連発しました。そして、感じたままを素直^{すなお}にバツと言いました。

「どうしてですか？」

だって、不思議^{ふしぎ}でしょ？いきなりかえるなんて。どうしてかきちんと説明してくれば、

『ああそうなのか、な～るほど！』

と思えるのですが……。そのあと司会者の方はこう言われました。

「え～、最近の時代の流れで、みんなそうしていつてるようなので

そうしようかと思うのですが……」

こんなのには納得^{なっとく}いきませんよね。

『それなら、人が死んだらお前も死ぬんか?!』

と思いましたが(大げない…)，優しい私は言いませんでした。そして代わりに、会場からこんな発言がありました。

「そもそも『婦人』の『婦』という漢字は、『掃く・掃除をする』^{はく・そうじ}という意味の『帚』に

『おんなへん』をつけた言葉であり、『女は掃除などの下働き^{したばたら}をするものだ』という古

い考え方がこの言葉を作ったと聞いています。そう考えると、人権^{そんちやう}が尊重^{そんじやう}される現代においては当てはまらない言葉だということではないでしょうか」

なんか、『待ってました!!』って感じで聞いてました。これなら、『な～るほど!』っ

て感じですよ。結局^{けっきよく}は『婦人部会』は『女性部会』にかわったわけですが、他にも

『父兄会』^{ふけいかい}を『父母会』^{ふぼかい}とか『保護者会』^{ほごしゃかい}に言い改めるようになってきています。「父親

や両親のいない子どもの気持ちをもっと考えていこう」という考えや、「女性を排除^{はいじよ}する

考えを改めよう」という人権尊重の精神が、そうさせてきたのだと思います。

しかし、言葉や形をかえればそれでいいというわけではありません。言葉や形だけにと

らわれて、中身が伴わないようでは同じ失敗の繰り返しになります。そもそも私たちの生きているこの社会は差別社会であり、人権が尊重されるようになった今だからこそ、言葉も含めて生活全般を見直す必要があるのだと思うのです。漢字も同様で、漢字は差別社会の中で生まれ育ってきたんだから、差別的なものがあって当たり前だと思うんです。それをじっくり見つめ、改めるのは、現代に生きる私たちのつとめではないでしょうか。



全国ふるさとづくり賞

大賞に県内から2件

脇町(市町)

寒川さん(個人)

財団法人 あしたの日本を創(つく)る協会(会長・永野健前日経連会長)などが主催する本年度「全国ふるさとづくり賞」の市町村の部で美馬郡脇町が、個人の部で坂野郡北島町江尻の寒川孝久さんが「二町立図書館長」が、それぞれ最高の大賞に選ばれた。同一県が二件同時に大賞に選ばれるのは一九九〇平成二年に三部門制になって以来初めてで、三部門のうち三部門の最高賞を徳島県関係が占めた。集団の部では、徳島市の「西富田藍の会」(荒瀬俊之会長、四十九人)が振興奨励賞になった。

うだつで町づくり 点字絵の発展に力



全国ふるさとづくり大賞に選ばれたうだの町並み(脇町南町)



寒川さん

この賞は八六年、個性豊かで潤いある地域社会づくりに取り組む優れた市町村などを対象に始まった。本年度は集団、市町村、個人の部に計百二十四件が応募。部ごとに大賞、ふるさとづくり賞各一件を選

んだ。集団の部の振興奨励賞は十七件。

脇町は伝統的町屋の公開や産業体験施設建設、ボラティアガイド、電線地中化など、うだつの町並を保存運動を核にした町づくりが高く評価された。八五年からは「うだつ」の城下まつりを開催。町立図書館なども「うだつ」を上げ、山田洋次監督の映画「虹(にじ)」をつかむ町(うだつ)のロケ地にもなった。

寒川さんは八五年、坂野小学校長を退職した後、点字を習い、点字の絵本を作ると点字図形作成器を開発した。これを見た県立学校の藤野裕寛教諭が、パソコンで点字絵を描くソフト「エーテル」を開発。寒川さんは点字絵本を作り続け、国内の盲学校へ千冊余、米国やニュージーランドの盲学校へ約二百冊を送った。また仲間と、一緒に「点字絵本の会」を作っ

て、点字絵本の会を作っ

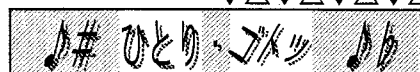
た。大賞受賞について佐藤脇町長は「うだつを象徴にした、住民参加の町づくりが評価され、うれしい。これからその真価が問われる時だ。先輩が積み重ねた実績をさらに生かしたい」と喜んでいる。

また寒川さんは「このような立派な賞を頂けるとは思ってもいなかった。本当はうれしく思います。これからの取り組みを評価していただけた喜びと同時に、この賞を励みにもっと努力していかなければならない」と思いを新たにしている。

☆ 知っててください「点字クラブ・寒川先生」

先日の徳島新聞に、前ページの記事が載っていました。顔写真入りのこの人物、みなさんは知ってますか？実は板中の点字クラブの指導に来ていただいている方こそが、この寒川先生なのです！

私が板中点字クラブをスタートさせたのが、もう4年も前になりますが、そのきっかけを作ってくれたのも、この寒川先生なのです。すごい人なんですよ～！ちなみに保護者の方の中に、ご存じの方もいるかもしれません。というのは、板野東小学校の元校長先生でもあるのです。そんな板野になじみ深い方が、退職後もライフワークとして社会貢献されているのを知ると、「私も頑張らねば！」とついつい思ってしまったりなんかします。これからもクラブの時は来校されると思いますが、見かけたら、満面の笑顔でニッコリあいさつをしましょうね。勇気ある人は、握手やサインを書いてもらうのもいいでしょう。また、昨日卒業アルバムの写真撮影をした点字クラブのみなさん、大切にしておきましょうね！



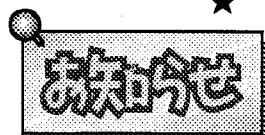
前の日曜日、ボーンチャイナの絵つけに行ってきた。みんなワイワイがやがや楽しく、でも真剣な瞬間もあるという時を過ごしてきました。焼き付け仕上がりに2週間ほどかかりますが、楽しみ楽しみです。解放文化展に展示されるので、みなさん見てくださいね！（私もお皿に描きましたので）

またこの日曜日には「親と子のふれあいフォーラム 親子で話そう ～笑福亭学光さんを囲んで～」が板中体育館で1:30からあります。PTA参観日にもなっているので、この機会に親子共々、一緒に学び合いましょう！

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★

- 11月14日(金) 「同和教育・部落問題」勉強会(19:30～; 郡教育集会所 テーマ「解放の父・松本治一郎のビデオ」)
- 18日(火) 2年生合同学習会(16:30～; 大会議室)
- 19日(水) 解放子ども会(18:00～; 総合センター)
- 20日(木) 第2学年第2回全体学習(2年E組資料「木を植えた男」)
- 21日(金) 板野町解放文化展「板野中学校PTA作品」制作(19:30～; 大会議室)
- 23日(日) 福知山子ども会との交流会(総合センター)
- 25日(火) 1年生合同学習会(18:00～; 総合センター)

★ ☆☆ ★★★ ☆☆☆ ★★★★★ ☆☆☆ ★



以前PTAの会で話をしていたとき、「同和教育の会に行けるなら行きたいと思うんだけど、いつあるのかわからない」と保護者の方に言われたことがありました。うれしいことです。結構他の町

では、P T Aや地域の方々も参加しているので、板野町もそうなればと思っていたのです。行ける方、興味ある方、ぜひ一緒に参加してみましょう！きっと何かが得られると思いますよ！詳しくは、中学校の阿部または吉成までご連絡ください。

11月16日(日) 板中P T A参観人権フォーラム(本校体育館)

11月29日(土)～12月1日(月) 第49回全国同和教育研究大会(熊本県)



南公会堂祭り（意見発表）（97. 12. 14）



南公会堂祭り（相撲大会）（97. 12. 14）

同和教育講演会録

『私の歩んできた道 ⑧』

サンダルを履いた、一見土木作業員風だったという、子どもから聞いたその人のスタイルを頭の中で描きながら、駅はもちろん町中捜しましたが、発見することはできませんでした。帰りの車の中で子どもは、

「僕は学校でも家でも同和教育について自分なりに一生懸命勉強してきたのに、差別に直面したとき『そのことは間違っている』と、一言それと言えなかった。そんな情けない自分に腹が立つ。ただ手に力が入っただけで、情けない……」

そう言いながら、握りしめていた拳を車のウインドウに打ちつけておりました。横で運転をしながら、子どもの胸のうちのつらさが私にも伝わってきました。家に帰り部屋に入るなり、一番下の子どもが、

「お父さん、『家族ぐるみで勉強して、差別をなくするんだ』ってあんなに強く言ってたのに、差別をなくすることはできなかったなあ」

一番下の子どもからそう言われたときには、情けないのと辛いのと腹立たしさで、胸が張り裂けそうになりました。私も、この時ほど怒りを感じたことはありませんでした。

「この世に人間としてのルールがなか

つたら……この世に人間としての治安がなかったら……この世に警察がいなかったら……」

私もその時は本当にそう思いました。

差別を受けた者のつらさや悲しみをその人に分かちてもらうためにも、差別をすることが悪いことであり罪なことだと分かちてもらうためにも、また差別をしながらそのことが悪いことだと気づかないまま人間の一生を終わっていくその人を、何とかしてあげるためにも、私は絶対捜し出そうと思いました。また子どもにも、そう約束をしました。

それから仕事の合間を見ながら、また仕事を終えてからも、何も知らない子どもの言ったその人のスタイルを頭に描きながら、ずっと探し続けました。どれだけの日にちが経ったか覚えておりませんが、ある日のことその人らしき人物を発見しました。私はその人の後をつけていきました。その人はある酒場に入り、酒を飲み始めました。

私は急いで学校に行き、柔道の部活をしていた子どもを連れて、その人を見させました。まぎれもなくその人でした。子どもを学校に帰し、私は店に入ろうと思いい戸を開けて中に入りました。その時、店の中には、他にも酒を飲みながら楽しんでいるお客さんが何組かいました。

「こんな時この人に話しかけたら、せ

つかく楽しんでいる他のお客さんに嫌な思いをさせてしまう。これまで長い間待ったのに、少しぐらい待てないことはない」

いきり立つ胸を押さえて、私はまた外へ出ました。

長い時間が経過しました。周りがすっかり暗くなったとき、その人は出てきました。私も立ち上がり、その人に話をしようと近づいていきました。その人は、酒に足を取られて立っているのが精一杯のような形でした。私はこの時、また話しかけを中断しました。

「ここで私が話しかけたら、今度は私の方が野暮になってしまう」

と思ったのです。

「酒が入ってないときに話すしかない」

と思いました。私はその人の後をつけてずっと歩いていきました。そしてその人の家を確かめ、その人の隣の人に、その人の名前と住所を聞き、その翌日、日町社会教育課ならびに同和对策日町支部にそのことを報告して、そしてその後、その人に対する指導を行政の方に一任しました。それから日町運動団体の組織の人が勉強会を開くようになり、その人を交えて、その頃そんな事実があったかどうか、その人から聞き合わす話し合いが設けられました。その中に、私も立ち会うことができました。

ある人が、

「あなたはSという名札をつけた子どもを見て、その子どもにあのようなくさをしたのはどうしてですか」という質問をしたのに対してその人は、

「私は現在東北の方で薦職の仕事をしていた、荒稼ぎで金が貯まったので日町に帰り一人生活をしている。そして酒を飲みながら楽しんで、金がなくなったらまた働きに出ている。そんな自分が小さい頃、家庭に部落から行商の人がやってきて、年輩の女の方が、草履などを持ってきてお茶の葉とか米なんかと物々交換をしていた。私はいつもその人が来たときは、お父さんから『お前は外へ遊びに行っておけ』といつも怒られていた。その人が来る度に、いつも私はそう言われて遊びに行っていた。そんなある日、父親に『あの人が来たならなぜ僕は遊びに行かなならんや』と尋ねると、『あの人はどんな病気を持っているかわからん。お父さんたち大人はうつりはしないけどお前は子どもだからうつるかもしれないから、いつもあの人が来たら遊びに行け』と言われてきた。

その人が、Sという名前だった」ということでした。ですからSという名札をつけた子どもを見たとき、同和地区の子どもだと思ったということ

でした。また……

つづく